

令和元年度全日本少年少女武道（空手道）錬成大会試合規則

1 基本錬成

フロアの正面に台を設け、基本錬成指導員が突き、蹴り、受けを行い、参加者は指導員の号令に合わせて気合を発しながら行う。

2 試合錬成

- (1) 試合錬成はまず形団体戦を行い、各部・各ブロックの決勝トーナメント進出チーム（各ブロック上位8チーム）により組手団体戦を行う。
- (2) 形・組手とも登録選手は1チーム3名以上4名以内とし、そのうち3名が出場する。この3名は小学生の部は男女混成でもよい。なお、登録したチーム以外への選手の移動は一切認めない。違反したチームは反則負けとする。
- (3) 監督は1チーム1名とし、重複は認めない。資格は18歳以上とし、高校生は不可とする。

3 試合の運行

(1) 形競技

- ① 形団体戦は、各チームごとに指定されたコート控え場所で待機、係員の呼び出しにより入場し、任意の位置につき正面に礼をする。その際、選手の並び方は自由とする。なお、どのコートで演武するかは、当日配布のプログラムを参照のこと。
- ② 演武は、まず始めに演武する形名を呼称する。主審の短笛1回の合図の後、演武代表者の号令「始め」で開始（号令はかけなくてもよい）し、演武が終了したら礼をしてコート外に下がり、採点表示を待つ。得点宣言を受けた後、再び礼をして退場する。
- ③ 1回目は、全日本空手道連盟・基本形（平安・ピンアン・ゲキサイ）の中から選んで演武する。
- ④ 2回目は、1回目で演武していない基本形、または全日本空手道連盟第一指定形（ジオン・カンクウダイ・バツサイダイ・セイエンチン・セーパイ・サイファ・セイシャン・チントウ）の中から選んで演武する。
- ⑤ 競技は、5人の審判員による採点方式とし、その最高・最低を除く3人の合計点を得点とする。ただし、1、2回目の合計得点が同点の場合は、1、2回目で採用した中の最低点をそれぞれ足した合計得点が高い点数のチームを勝者とする。その結果、さらに同点の場合は、1、2回目で採用した中の最高点をそれぞれ足した合計得点が高い点数のチームを勝者とする。さらに同点の場合は、再演武を行う。再演武は、基本形、または第一指定形を演武する。なお、1、2回目で演武した形を再度演武してもよい。
- ⑥ 判定の基準は、原則としてチーム全体のまとまりを総合的に判定するが、主要な得点要素は下記の各項とする。
 - (ア) 団体行動すべてが整然としているか否か。
 - (イ) 礼が守られているか否か。
 - (ウ) 全体としての技の極め、スピード、安定度等。
- ⑦ 反則負け及び減点の対象については、(公財)全日本空手道連盟競技規定のとおりとするが、一部については、全日本少年少女武道（空手道）錬成大会申し合わせ事項（別紙）を適用する。
- ⑧ プログラムについては、システムの都合上、「平安」「ピンアン」は平安のみの表記となる。

(2) 組手競技

- ① 組手団体戦は、形団体戦各ブロックの上位8チームによりトーナメント方式で行う。
- ② 競技は、(公財)全日本空手道連盟空手規定に準拠して実施する。
- ③ 競技時間は、1分30秒フルタイムとする。
- ④ 勝敗は、時間内に6ポイント差が生じた場合、あるいは反則・棄権・失格、又は競技終了時に得点の多い選手を勝ちとする。競技終了時に同点で「先取」がない場合は、引き分けとする。
- ⑤ 組手団体戦の勝敗は、全員試合を終了した時点で勝者数の多い方を勝ちとする。勝者数が同数の場合は、ポイント数が多い方を勝ちとする。ポイントが同数の場合のみ代表戦を行う。
- ⑥ 定員数を下回り、2名の場合でも試合は成立する。ただし、先詰め出場とする。
- ⑦ チームの勝敗にかかわらず、全員（3名）の試合を行う。
- ⑧ 選手の出場順は、監督が試合ごとに所定の用紙に記入し、各コートの記録係に提出すること。
- ⑨ 安全具は各自で用意すること。全空連検定メンホーNo.5以上、ボディプロテクター（空手衣の中に着用）、拳サポーター（小学生は全空連検定小学生用赤・青リバーシブル拳サポーターとし、中学生は従来の赤・青拳サポーターとする）、インステップガード及びシンガードを着装すること。また小学3年生以上の男子は必ずセーフティカップを着用すること。小学1、2年生は、所属の監督の判断に委ねる。
- ⑩ 試合の審判団は、監査1名、主審1名、副審4名の構成で行う。

4 表彰

(1) 各部ごとに次の各賞を授与する。

(ア) 小学1・2年生の部、小学3・4年生の部、小学5・6年生の部

- ① 優秀賞（2チーム）
- ② 優良賞（2チーム）
- ③ 敢闘賞（4チーム）
- ④ 努力賞（8チーム）

※①～③は閉会式にて授与する。

(イ) 中学生男子の部、中学生女子の部

- ① 優秀賞（1チーム）
- ② 優良賞（1チーム）
- ③ 敢闘賞（2チーム）
- ④ 努力賞（4チーム）

※①～③は閉会式にて授与する。

(2) 優秀賞のチームには日本武道館より優秀旗（持ち回り）を贈る。

(3) 前年度の優秀賞受賞チームにはレプリカを授与する。

5 その他

この「試合規則」の内容は、責任者のみならず各チームの監督も熟知しておくこと。

以上